ふくしま県人会だより

第 17 号
平成20年1月
福島県人会
北海道連合会

新年のごあいさつ

会長　長谷川　顕

新年明けましておめでとうございます。

県人会の皆様に於かれましては、輝きに満ちた新春を迎えられましたことと推察し、お慶び申し上げます。

昨年の連合会総会には、遠路の処、佐藤雄平福島県知事御夫妻の御臨席を頂き、盛大かつ有意義な総会を開催できましたことに敬意を表し厚く御礼を申し上げます。

これも偏に紋別県人会の皆様の御尽力と、出席会員皆様の御協力の賜であり、衷心より御礼を申し上げます。

昨年は、北海道も温暖化の影響のせいか気温の高い夏を過ごし、米作及び農作物の豊作と品質の良さに恵まれ、大変喜ばしい限りでございました。しかし反面、石油製品の高騰により経済が圧迫され物価が値上がりする等、生活にも影響をもたらしております。

また十月には三年に一度の母県訪問をされましたが、出席会員が少なく一抹の寂しさを感じたとのことでした。私も所用のため参加できず、旭川県人会の小野会長に大変御迷惑をお掛けしましたことに深くお詫び申し上げます。

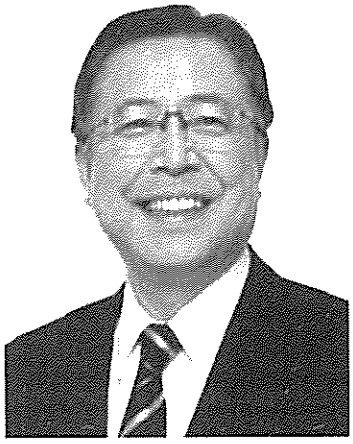
また、十二月に入り各地に於いて寒波に襲われたり、大雪に遭われたり、冬の異常気象に驚きもしました。

今年の連合会総会は、美幌県人会の御協力により、網走市において開催される予定です。網走市では初めての総会ですが、観光地としての名所も多く、有名な網走刑務所の所在地でもあります。一年に一度の交流の場で、会員皆様の元気な姿と健康な笑顔にお会いできますことを楽しみにしておりますので、多くの皆様の御参加をお待ちいたしております。

最後になりましたが、県人会員皆様の御健勝と御多幸を祈念し、呉々も御健康には留意されますことをお祈りいたし、新年の挨拶にかえさせて頂きます。

新年のごあいさつ

福島県知事　佐藤雄平



新しい年の初めに当たり、福島県人会北海道連合会の皆さんの御多幸を心からお祈り申し上げます。

皆さんの県人会が、昭和四十八年の結成以来、会員相互の絆を深められ着実に発展を続けておられますことは誠に喜ばしい限りであり、役員の方々並びに会員の皆さんの御尽力と熱意に深く敬意を表します。また、福島県と北海道との架け橋として、日ごろふるさと福島県に対し格別の御支援をいただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、人口が減少に転じ、特に過疎・中山間地域をはじめとした地方の置かれた状況には厳しいものがあります。私は、「地方の発展なくして日本の発展はない」との信念の下、大都市部と地方の格差の是正を一貫して主張し、地域の自立的な発展につながる取り組みを進めてまいりました。

今年は、県政の基本方針である、「活力」に満ちあふれ、「安全・安心」で住み心地の良い、「思いやり」を大切にした県づくり

をさらに進めてまいる考えであります。

まず、地域の「活力」を生み出すため、農林水産業・地域産業の育成や企業誘致を進め、就業機会の確保を図るほか、定住・二地域居住の推進、観光の振興、県産品の販路拡大を積極的に進めてまいります。また、暮らしに根ざした地域文化やスポーツの振興による地域づくりを進めてまいります。

次に、「安全・安心」の基盤づくりを進めるため、地震などの自然災害や事故への速やか、かつ適切な対応や、民間との連携の下、医師不足対策をはじめとした地域医療の確保になお一層取り組んでまいります。また、原子力発電所の安全性確保や安全規制体制の強化を国、事業者に強く求めていくなど、安全に安心して暮らせる環境づくりに引き続き取り組んでまいります。

さらに、「思いやり」の心が息づく、安心して子どもを生み育てることのできる環境の整備、知・徳・体のバランスのとれた本県の未来を担う人づくりの推進に努めてまいります。本県の美しい自然を次世代に引き継ぐために、地球温暖化防止対策をはじめ環境保全にも積極的に取り組んでまいります。

私は、徹底した行財政改革に取り組みながら、皆さんが誇りを持って語ることができる、豊かな福島県を目指し、全力を尽くしてまいりますので、県政運営に対する一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限りない発展と、会員の皆さんの今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

会員通信

『私の思い出』

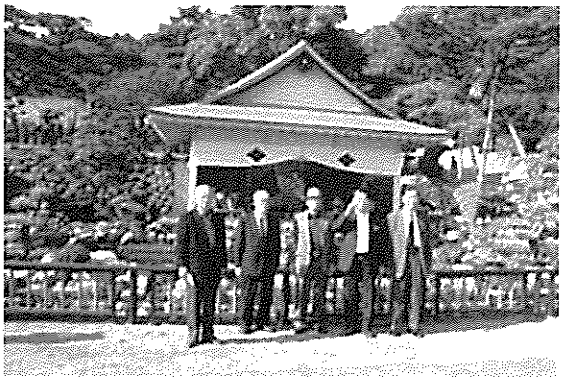
旭川福島県人会
大槻　武夫

私が子供の頃から、親父（大槻栄）は福島県生まれだとよく言っていました。そんな親父が福島県へ行ってみたいと言ったことは一度もありませんでした。

私は男六人女六人、十二人兄弟の中の三男です。親父は「小中学校卒業までは親の責任で育てる。高校は夜学もあるので自分で行け。」と言っていました。中学校卒業も近いある日、高校受験の話で中学校の先生が自宅へ訪問に来ました。その時父親は「息子がアルバイトをして、夜学の高校へ行かせ、高校は工業高校。卒業後は土方の棒頭（今の土木技術士）にしてくれ。」と話をしていた事を今でも思い出しています。

工業高校土木科のはずが建築科に入学（先生が間違って建築科を受験させたのではと今は思っています）。建築科の四年間は夜学で学び卒業しました。最初は豆腐屋住み込み、次にパン屋、キャンディー屋、そして兄が始めた八百屋と果物店を手伝い、四年間アルバイトをしながらなんとか卒業できました。

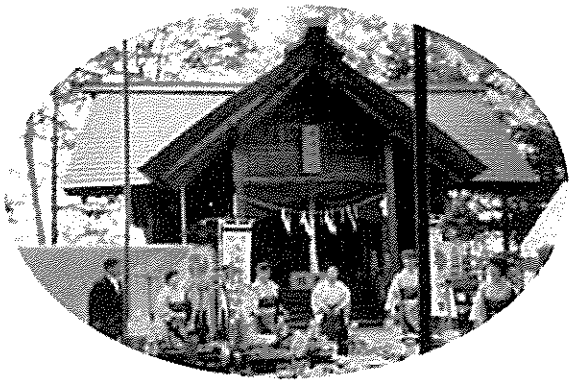
卒業後は建築会社に就職。技術士、建築士免許を取り、一般建設業許可の土木建築の認可を受けて二十八歳の時に独立し、大槻建設㈱を設立しました。その後、設計事務所、不動産会社も開業したため、建設会社とあわせて三社の代表取締役として働いてきました。今は約四十年間続けた建設会社と設計事務所の二社を閉業、宝不動産㈱で代表取締役を続けております。


二本松菊人形会場にて（左端が筆者）

その時に出会った旭川福島県人会の小野会長の誘いで入会し、二度親父の故郷である福島県を訪問させていただきました。親父の出生地は福島県伊達郡保原町太田村大字大立目字出水六十番地と謄本に載っていました。

親父の父（大槻忠吉）は、子供四人を連れて親父が五歳の時に現在の旭川ペーパン（すっかり有名になった旭山動物園から車で十分ほど）に移住しました。昔の上ペーパンに住まいしたと聞いております。大変寒かった小屋の中の生活でした。親父がなぜ福島県の言

葉丸出しで話をしているのか、なぜ一度も帰りたいという話をしないのか不思議でした。金が無くて福島へ行かないのかと思っていましたが、私が今日になって調べてみると、福島県から移住した人達が福島団体で生活して、福島県丸出しの言葉で話をしているものだから、親父も福島の訛りが出て話をしていたという事や、親父が五歳の時に連れて来られたものだから、福島県の親父の故郷を知らないという事もわかりました。


ペーパンの太田神社

小野会長と福島県保原町に行き、何故ペーパンに移住したかを調べてみると、阿武隈川は暴れ川だと聞きました。当時は堤防が出来ていないため、大雨が降った時に水田や畑が水浸しになり、生活が大変というので移住したと、今まで知らなかった事もわかりました。

保原町には太田神社がありますが、ペーパンにも太田神社があります。母県訪問の時には太田小学校の写真も撮ってきました。小野会長と知り合って初めて親父の故郷、福島県を訪問させていただきました。ありがとうございます。

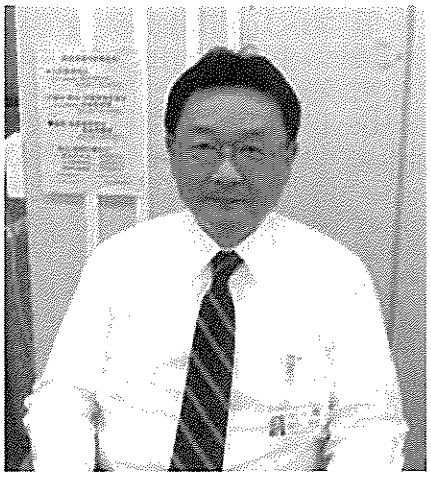
OBからのお便り

ススキノは第二のふるさと

第十二代次長　酒井　英資

北海道の福島県人会会員と御家族の皆様、あけましておめでとうございます。

私は、平成十三年度から三年間、北海道で勤務でき、皆様には大変お世話になりました。また、昨年十月の母県訪問の際には、懇親会で旧交を温めることができました。改めて御礼申し上げます。現在は、福島県立医科大学に勤務しております。



北海道では、私が大学生活を札幌で過ごしたことや妻が北海道生まれということもあって、違和感なく生活を送ることができました。

当時からみると、札幌の街並みも大きく変わっていましたが、藻岩山などの山並み、大通公園や真駒内の冬季オリンピック施設、さらには、北日本最大の繁華街ススキノなどに懐かしさを感じたことを覚えています。

さて、そのススキノには、その頃からあった飲食店がいくつか残っていました。

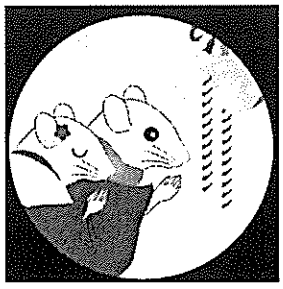
その内の一つが、南六条西四丁目「ススキノ〇番地」で、変わらず（人と内装は、変わっています）営業している「札ちょん」です。

ここは、昭和三十九年に、現在のマスターの太田正師さんのお母さんのミヤ子さん（大ママ）が始めたスナックで、今はミヤ子さんは引退され、正師さんと、当時アルバイトをしていた正師さんの奥さんの幸子さん（通称「さっちゃん」）が店を切り盛りしておられます。

大学の恩師の「社会学の基本は、ススキノに始まる」との指導のとおり、日々、飲食店の開店と閉店を繰り返す生々流転の街ススキノで、四十年以上も営業を続けることは、珍しいことだと思います。これも、ミヤ子さんや正師さん、幸子さんを始め、スタッフの皆さんの人柄のなせるものなのでしょうか。

乱文を書き連ね、大変失礼いたしました。

最後になりましたが、北海道の福島県人会の一層の御発展と、会員と御家族の皆様の御健勝をお祈り申し上げまして、筆を置きます。



連合会の活動

第十三回母県訪問旅行

平成十九年十月十七日から二泊三日の日程で、ふるさと福島県を訪問してきました。

初日に福島県知事を表敬訪問し、夜には事務所ＯＢとの懇親会を催して親睦を深めてきました。

観光では二本松の菊人形をはじめ、裏磐梯の紅葉や五色沼、白虎隊士の墓、大内宿、塔のへつりなどを巡り、故郷の歴史と美しい自然を満喫した旅でした。

北海道事務所のホームページに写真を掲載してありますので、ぜひ御覧ください。

http://www.pref.fukushima.jp/hokkaido/

新会員紹介

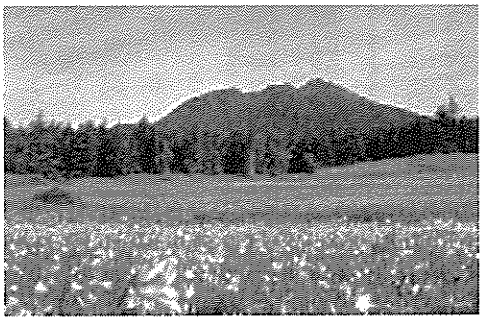
旭川福島県人会

佐藤貞夫（さとう　さだお）桑折町

母県動向

「尾瀬国立公園」が分離独立

平成十九年八月三十日に、二十九番目の国立公園として「尾瀬国立公園」が指定されました。新たな国立公園の指定は、釧路湿原国立公園（昭和六十二年）以来、二十年ぶりとなります。



ﾆｯｺｳｷｽｹﾞが群生する尾瀬

尾瀬国立公園は、日光国立公園の尾瀬地域に、会津駒ヶ岳及び田代山、帝釈山周辺の針葉樹林（オオシラビソ林）や山地湿原などを加えた区域です。面積は従来の尾瀬地域よりも一万一千九百七十九ヘクタール広い三万七千二百ヘクタールで、総面積に占める本県の割合は四十六．三％です。

夏がくれば思い出す
はるかな尾瀬　遠い空…

我が国で最も新しい国立公園、皆さんもぜひ一度訪れてみては。

音楽王国ふくしまを全国にアピール

第六十回全日本合唱コンクール全国大会において、高校部門Ｂグループ（三十三人以上）に東北代表として出場した葵高校（会津若松市）は金賞に選ばれ、さらに最高賞の文部科学大臣賞に輝きました。安積黎明高校（郡山市）も金賞（二十八年連続）と三位相当の岩手県教育長賞を受賞しました。

中学校部門混声の部では、郡山二中が金賞と五年連続日本一となる文部科学大臣賞に輝いたほか、郡山一中も金賞と二位相当の盛岡市長賞に選ばれ、その他にも多数の受賞がありました。

また、第五十五回全日本吹奏楽コンクール全国大会高校の部で、磐城高校（いわき市）が本県勢初となる二年連続の金賞に輝くなど、合唱はもとより吹奏楽でも本県チームの活躍が際だった年でした。

本県は「合唱王国」としてその名を全国に轟かせていますが、今年の三月には国内初となる第一回声楽アンサンブルコンテスト全国大会を福島市音楽堂を会場に開催し、さらなるレベルアップに向け、歌うことの楽しさを全国に発信することとしています。

編集後記

農林水産省主催の郷土料理選定委員会は、日本の代表的な農山漁村の郷土料理として九十九品を選定・発表した。本県からは会津地方の伝統的な郷土料理である「こづゆ」と「にしんの山椒漬け」が選ばれた。この他にも、真鱈の干物を使った棒たら煮なども郷土料理として有名である。

身欠きにしんや棒たらは、北方警備についた会津藩士が北前船で留守家族に送ったものであり、それが会津の食文化を発達させ、郷土料理として今日まで受け継がれてきた。

今年は、会津藩の北方警備から数えてちょうど二百年、北海道と福島県の一層の交流拡大に向けて、皆様の御協力をお願いします。